

みずほマーケット・トピック(2016 年 3 月 25 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3.本日のトピック」はお休みとさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は強含む展開。週初 21 日、111 円台半ばでオープンしたドル/円は、東京市場休場となる中、一時週安値となる 111.22 円をつけるも、ウィリアムズ・サンフランシスコ連銀総裁やロックハート・アトランタ連銀総裁が 4 月利上げの可能性を示唆したことでドル買い戻しの動きが強まり、111 円台後半まで上昇した。22 日はブリュッセルでのテロの影響を受けユーロ/円が急落する動きに、ドル/円も週安値近辺まで一時値を下げたが、エバンス・シカゴ連銀総裁のタカ派な発言を背景に 112 円台半ばまで上昇した。23 日には、ブラード・セントルイス連銀総裁の 4 月の利上げはあり得るとの発言にドル買いが強まると、ドル/円は 112 円台後半まで上伸。その後は原油価格の下落や米株安を背景にドル/円は 112 円台前半に反落した。24 日にかけてはイースター休暇を控えポジション調整の動きも入る中、再びドル買い優勢地合いに、ドル/円は 113 円ちょうどをつけた。その後、米 2 月耐久財受注の弱い結果に 112 円台前半まで弱含む場面が見られるもののレベルでのドル買い意欲は強く、直ぐに 112 円台後半に上昇した。本日にかけてもドル/円はさらに上昇し、一時週高値となる 113.32 円をつけている。
- ・今週のユーロ相場は下落する展開。週初 21 日、1.12 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、米 2 月シカゴ連銀全米活動指数の大幅な悪化を嫌気したドル売りに一時週高値となる 1.1285 まで上昇したが、ウィリアムズ・サンフランシスコ連銀総裁やロックハート・アトランタ連銀総裁が 4 月利上げの可能性を示唆したことでドル買い戻しの動きが強まると、1.12 台前半まで下落した。22 日はブリュッセルでのテロの影響を受けてユーロ/ドルは 1.11 台後半まで下落したが、独 3 月サービス業 PMI や独 3 月 Ifo 景況指数の良好な結果を受けて 1.12 台前半まで上昇した。23 日は、ブラード・セントルイス連銀総裁の 4 月利上げを示唆する発言にドル買い優勢となり、ユーロ/ドルは 1.11 台後半まで下落、その後も上値は重く 1.11 台後半で方向感に乏しい推移が継続した。24 日、イースター休暇を控えポジション調整も入り、ユーロ/ドルは一時週安値となる 1.1144 をつけたが、米 2 月耐久財受注の結果を受けたドル売りに 1.11 台後半まで値を戻した。本日にかけてのユーロ/ドルは前日の流れを引継ぎ 1.11 台後半で方向感に乏しい推移が継続している。

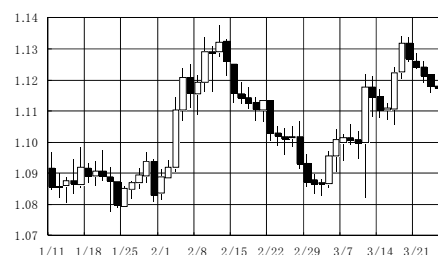
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		3/18(Fri)	3/21(Mon)	3/22(Tue)	3/23(Wed)	3/24(Thu)	
ドル/円	東京9:00	111.37	111.45	112.15	112.26	112.43	
	High	111.75	111.98	112.49	112.90	113.00	
	Low	110.83	111.22	111.38	112.14	112.30	
	NY 17:00	111.56	111.96	112.40	112.38	112.90	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1315	1.1274	1.1235	1.1221	1.1178	
	High	1.1337	1.1285	1.1260	1.1223	1.1188	
	Low	1.1257	1.1234	1.1189	1.1160	1.1144	
	NY 17:00	1.1270	1.1242	1.1216	1.1180	1.1173	
ユーロ/円	東京9:00	126.01	125.67	126.01	125.95	125.68	
	High	126.19	126.06	126.27	126.25	126.19	
	Low	125.30	125.23	124.67	125.52	125.40	
	NY 17:00	125.85	125.87	126.04	125.64	126.15	
日経平均株価		16,724.81	-	17,048.55	17,000.98	16,892.33	
TOPIX		1,345.05	-	1,369.93	1,364.20	1,354.61	
NYダウ工業株30種平均		17,602.30	17,623.87	17,582.57	17,502.59	17,515.73	
NASDAQ		4,795.65	4,808.87	4,821.66	4,768.86	4,773.51	
日本10年債		-0.09%	-0.09%	-0.10%	-0.11%	-0.08%	
米国10年債		1.87%	1.92%	1.94%	1.88%	1.90%	
原油価格(WTI)		41.14	41.52	41.45	39.79	39.46	
金(NY)		1,254.30	1,244.20	1,248.60	1,225.60	1,223.50	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・米国では、4月1日(金)に3月雇用統計が発表される。調査週に当たる3月第2週(12日を含む週)の新規失業保険申請件数は、趨勢を示す4週移動平均で26.8万件と2月調査週の27.3万件から減少している。こうした先行指標の結果を受けて、市場では3月の非農業部門雇用者数は前月比+20.2万人と2月(同+24.2万人)から鈍化するものの、雇用回復の目安とされる+20万人を上回ると予想されている。また、失業率は4.9%と前月から横這い、先行きのインフレ率に影響する平均時給については前月比+0.2%と2月(▲0.1%)から改善する見込みである。3月15～16日にかけて開催されたFOMCでは、メンバーの政策金利見直し(ドットチャート)が下方修正され、2016年の米利上げ回数見込みは2回に半減している。市場では6月利上げを期待する向きが残っており、雇用統計を始めとした重要指標が下ぶれた場合には利上げ期待の縮小とともにドルが軟化する可能性が高い。このほか、3月28日(月)に2月PCEコアデフレータ、29日(火)にはウィリアムズ・サンフランシスコ連銀総裁による講演、4月1日(金)にISM製造業景気指数が予定されている。
- ・本邦では、4月1日(金)に日銀短観3月調査が発表される。大企業・製造業の業況判断DIは+10ポイント(12月:+12ポイント)と悪化が見込まれるほか、大企業・非製造業では+25ポイント(12月:+25ポイント)と横這いが予想される(みずほ総合研究所による予測)。前回12月調査では、大企業・製造業DIの現状が+12と6月調査から横這い、先行きが+7と▲3ポイント低下した。新興国の景気減速により生産用機械や電気機械など輸出業種の悪化が主因となっている。今回調査にかけても新興国の減速に加えて、想定レート(12月調査における2015年度は119.40円)を超えた円高の進行や在庫調整圧力の残存が業況を下押しした模様だ。非製造業では不動産・建設業が引き続き高水準を維持するものの個人消費の弱含みが小売などの業況を下押しする見込みである。また、年明け以降に円高が進行するなかで、想定為替レート(大企業・製造業)がどれだけ円高方向に設定されるかが注目される。このほか、3月29日(火)に2月失業率、2月家計調査、30日(水)に2月鉱工業生産、4月1日(金)に3月自動車販売台数が発表される。
- ・欧州では、3月30日(水)にユーロ圏景況感、31日(木)にユーロ圏3月総合消費者物価指数(HICP)、4月1日(金)にユーロ圏2月失業率が発表される。このうち、ユーロ圏3月HICPは前年比+0.0%(2月同▲0.2%)と引き続き弱い動きになると予想されている。3月10日のECB理事会後の記者会見でドラギECB総裁は更なるマイナス金利幅拡大に対して否定的な発言を行った。足許にかけてインフレ率の低迷が続く中で、3月HICPの低迷を受けて市場ではECBによる量的金融緩和の拡大を期待する声が高まる可能性がある。

	本 邦	海 外
3月25日(金)	_____	・米10～12月期GDP(3次速報)
28日(月)	_____	・米2月個人所得・消費 ・米2月PCEコアデフレータ
29日(火)	・2月労働動力調査 ・2月家計調査 ・2月商業動態統計	・米1月S&P/ケース・シラー住宅価格 ・米3月消費者信頼感指数
30日(水)	・2月鉱工業生産(速報)	・米3月ADP雇用統計
31日(木)	・2月新築住宅着工	・米3月シカゴ購買部協会景気指数 ・ユーロ圏3月消費者物価(速報)
4月1日(金)	・日銀短観(3月調査) ・3月自動車販売台数	・米3月雇用統計 ・米3月ISM製造業景気指数 ・米2月建設支出 ・米3月ミシガン大学消費者マインド(確報) ・ユーロ圏2月失業率

【当面の主要行事日程(2016年4月～)】

G20 財務相・中央銀行総裁会議(4月14～15日、ワシントン)
 ECB 理事会(4月21日、6月2日、7月21日)
 ユーロ圏財務相会合、EU 経済財務相理事会(ECOFIN)(4月22日～23日)
 米FOMC(4月26～27日、6月14～15日、7月26～27日)
 日銀金融政策決定会合(4月27～28日、6月15～16日、7月28～29日)

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2016年3月)

月	火	水	木	金	週末
	1 日本 労働力調査(1月) 日本 家計調査(1月) 日本 自動車販売台数(2月) 日本 法人企業統計(10～12月期) 米国 ISM製造業景気指数(2月) 米国 建設支出(1月) ユーロ圏 失業率(1月)	2 日本 マネタリーベース(2月) 米国 ADP雇用統計(1月) 米国 ページジュブック	3 米国 労働生産性(確報、10～12月期) 米国 ISM非製造業景気指数(2月) 米国 製造業新規受注(1月)	4 米国 雇用統計(2月) 米国 貿易収支(1月)	
7 日本 景気動向指数(速報、1月) 米国 消費者信用残高(1月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル) ドイツ 製造業受注(1月)	8 日本 GDP(確報、10～12月期) 日本 国際収支(1月) 日本 貸出・預金動向(2月) 日本 景気ウォッチャー調査(2月) 日本 企業倒産件数(2月) ユーロ圏 GDP(速報値、10～12月期) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ECOFIN、ブリュッセル) ドイツ 鉱工業生産(1月)	9 日本 マネーストック(2月) 米国 卸売売上高(1月)	10 日本 企業物価(2月) 米国 財政収支(2月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト) ドイツ 貿易収支(1月)	11 日本 法人企業景気予測調査(1～3月期)	
14 日本 金融政策決定会合(～15日) 日本 機械受注(1月) ユーロ圏 鉱工業生産(1月)	15 日本 鉱工業生産(確報、1月) 日本 第三次産業活動指数(1月) 米国 FOMC(～16日) 米国 小売売上高(2月) 米国 生産者物価(2月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(3月) 米国 企業在庫(1月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、1月)	16 米国 住宅着工(2月) 米国 消費者物価(2月) 米国 鉱工業生産(2月)	17 日本 貿易収支(2月) 米国 経常収支(10～12月期) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(3月) 米国 景気先行指数(2月) ユーロ圏 EU首脳会議(ブリュッセル、～18日) ユーロ圏 貿易収支(1月) ユーロ圏 消費者物価(確報、2月)	18 日本 日銀金融政策決定会合議事要旨(1月28～29日開催分) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、3月)	
21 日本 春分の日 米国 中古住宅販売(2月) ユーロ圏 国際収支(1月)	22 ドイツ ZEW景況感指数(3月) ドイツ IFO企業景況感指数(3月)	23 米国 新築住宅販売(2月)	24 日本 日銀金融政策決定会合(主な意見) 米国 耐久財受注(2月)	25 日本 全国消費者物価(2月) 日本 東京都都区消費者物価(3月) 日本 企業向けサービス価格(2月) 日本 景気先行指数(確報、1月) 米国 GDP(3次速報、10～12月期)	
28 米国 個人所得・消費(2月)	29 日本 労働力調査(2月) 日本 家計調査(2月) 日本 商業販売統計(2月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(1月) 米国 消費者信頼感指数(3月)	30 日本 鉱工業生産(速報、2月) 米国 ADP雇用統計(3月)	31 日本 新設住宅着工(2月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(3月) ユーロ圏 消費者物価(速報、3月)		

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
 (資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2016年4月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 日銀短観(3月調査) 日本 自動車販売台数(3月) 米国 雇用統計(3月) 米国 ISM製造業景気指数(3月) 米国 建設支出(2月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、3月) ユーロ圏 失業率(2月)	
4 日本 マネタリーベース(3月) 米国 製造業新規受注(2月)	5 米国 貿易収支(2月) 米国 ISM非製造業景気指数(3月) ドイツ 製造業受注(2月)	6 日本 景気動向指数(速報、2月) 米国 FOMC議事要旨(3月15～16日開催分) ドイツ 鉱工業生産(2月)	7 米国 消費者信用残高(2月)	8 日本 国際収支(2月) 日本 景気ウォッチャー調査(3月) 日本 企業倒産件数(3月) 米国 卸売売上高(2月) ドイツ 貿易収支(2月)	
11 日本 機械受注(2月)	12 日本 貸出・預金動向(3月) 米国 財政収支(3月)	13 日本 企業物価(3月) 日本 マネーストック(3月) 米国 小売売上高(3月) 米国 生産者物価(3月) 米国 企業在庫(2月) 米国 ページアップ ユーロ圏 鉱工業生産(2月)	14 米国 消費者物価(3月) ユーロ圏 消費者物価(確報、3月) G20財務相・中央銀行総裁会議(ワシントン、～15日)	15 日本 鉱工業生産(確報、2月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(4月) 米国 鉱工業生産(3月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、4月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、2月) 米国 IMF・世界銀行春季総会(ワシントン、～17日) ユーロ圏 貿易収支(2月)	
18	19 米国 住宅着工(3月) ユーロ圏 経常収支(2月) ドイツ ZEW景況指数(4月)	20 日本 貿易収支(3月) 米国 中古住宅販売件数(3月)	21 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(4月) 米国 景気先行指数(3月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	22 日本 第三次産業活動指数(2月) ユーロ圏 財務相会合(アムステルダム)	23 ユーロ圏 EU経済・財務相理事会 (ECOFIN、アムステルダム)
25 日本 企業向けサービス価格(3月) 日本 景気動向指数(確報、2月) 米国 新築住宅販売(3月) ドイツ IFO企業景況感指数(4月)	26 米国 FOMC(～27日) 米国 耐久財受注(3月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(2月) 米国 消費者信頼感指数(4月)	27 日本 日銀金融政策決定会合(～28日)	28 日本 金融政策決定会合・展望(基本的見解) 日本 東京都都区消費者物価(4月) 日本 全国消費者物価(3月) 日本 労働力調査(3月) 日本 家計調査(3月) 日本 商業販売統計(3月) 日本 新設住宅着工(3月) 日本 鉱工業生産(速報、3月) 米国 GDP(1次速報、1～3月期)	29 日本 みどりの日 米国 雇用コスト(1～3月期) 米国 個人所得・消費(3月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(4月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、4月) ユーロ圏 失業率(3月) ユーロ圏 消費者物価(速報、4月) ユーロ圏 GDP(確報値、1～3月期)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2016年3月24日	ユーロ相場、再考～実質金利、PPP、実質実効為替相場～
2016年3月23日	ブリュッセルテロを受けて～目立つ英ポンドの動揺～
2016年3月22日	ユーロ圏経常黒字とユーロ相場の近況について
2016年3月18日	週末版(過去2か月のG3通貨相場から言えること～基軸通貨には逆らえず～)
2016年3月17日	FOMCを終えて～やはり「2回出来れば御の字」の米利上げ～
2016年3月16日	日銀金融政策決定会合について～際立つECBとの対比～
2016年3月15日	TLTRO2に関するQ&A～侮れない、その実力～
2016年3月14日	求められる、市場期待に対して「No」と言う勇氣
2016年3月11日	週末版(ECB理事会を終えて～侮やまれる満点回答～)
2016年3月10日	日銀会合プレビュー～「Mr.Kurodaは気にしない」のか？～
2016年3月4日	週末版
2016年3月3日	今年が「円高の年」なら、まだ底は深い～過去30年の経験則～
2016年3月2日	ECB理事会プレビュー～注目すべき論点の整理～
2016年3月1日	上海G20、為替見通しへのインパクトについて
2016年2月26日	週末版(筋が通らない日中に対する通貨安批判～まずはFRBの政策修正が筋～)
2016年2月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年1月分)
2016年2月24日	英国のEU離脱に係る論点整理
2016年2月22日	中国版ブラザ合意へ燃る期待について
2016年2月19日	週末版(ECB理事会議事要旨(1月21日開催分)を受けて～「保険」≒「混乱の種」という皮肉～)
2016年2月16日	マイナス金利で円高は「不幸中の幸い」？
2016年2月12日	週末版(やはり始まった購買力平価への回帰～最終的に報われる為替予測とは～)
2016年2月10日	弱まる「期待への働きかけ」と為替相場の関係
2016年2月9日	円の需給環境の総括と展望～15年国際収支を受けて～
2016年2月8日	米1月雇用統計を受けて～成熟化への不安～
2016年2月5日	週末版(マイナス金利決定から1週間を終えて～早くも心配される「本当のマイナス金利」～)
2016年2月4日	「終わりの始まり」が近づくFRBの正常化プロセス
2016年2月3日	円安ドライバーとしては役不足な日銀マイナス金利
2016年2月2日	日銀の追加緩和が可能だった理由
2016年2月1日	日銀マイナス金利政策導入を受けて～逐次投入体制へ～
2016年1月29日	週末版
2016年1月28日	FOMC(1月26～27日開催分)を受けて
2016年1月27日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年12月分)
2016年1月26日	ドラギ総裁講演について～崩れるインフレ期待の「壁」～
2016年1月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー～静観する勇氣～
2016年1月22日	週末版(ECB理事会を終えて～2連敗は避けられるか？～)
2016年1月21日	円相場の調整余地を探る～試される日銀～
2016年1月20日	ユーロ相場を巡る最近の証券投資フローについて
2016年1月19日	ECB理事会プレビュー～ECB版の補完措置へ向けて～
2016年1月18日	「あく抜け」に求められるもの～人民元の完全フロート化～
2016年1月15日	週末版(ECB理事会議事要旨について～ドラギマジック、「初の黒星」の舞台裏～)
2016年1月14日	厳しくなってきたFRBの「痩せ我慢」
2016年1月13日	本邦11月国際収支統計と円相場の需給について
2016年1月12日	Game changerになれなかった米12月雇用統計
2016年1月8日	週末版(中国外貨準備減少の正しい読み方～トリレンマの「総取り」はいつまでも出来ない～)
2016年1月7日	FOMC議事要旨～「ハト派なタカ派」を再確認～
2016年1月5日	119円台前半の意味～想定為替レートとの対比～
2016年1月4日	2016年の為替見通しポイント～過去2年との違い～
2015年12月28日	2015年の為替相場総括～為替従属強まる日米欧中銀～
2015年12月25日	週末版(【暫定版】中期為替相場見通し～ユーロ相場～)
2015年12月24日	【暫定版】中期為替相場見通し～ドル/円相場～
2015年12月22日	完全雇用の背後にあるもの～景気と雇用のズレ～
2015年12月21日	日銀金融政策決定会合～QQE2.5の読み方～
2015年12月18日	週末版
2015年12月17日	FOMCを終えて～ドル/円見通しに影響なし～
2015年12月16日	日米金利差から見る現状のドル/円相場
2015年12月14日	日銀短観12月調査～後がない想定為替レート～
2015年12月11日	週末版(ECBのバランスシート拡大について～「2016年6月」に向けての進捗状況～原油価格下落のG3通貨への含意)
2015年12月9日	原油価格下落のG3通貨への含意
2015年12月8日	本邦10月国際収支統計と円相場の需給について
2015年12月7日	ECBはどうしたら踏み込むのか？今後のユーロ相場は？
2015年12月4日	週末版(ECB理事会を終えて～「故意的な失望」は転ばぬ先の杖か～)
2015年12月3日	イエレン講演や限界に迫るドル買い相場
2015年12月2日	実質実効為替相場(REER)で見る、ドル相場・円相場
2015年12月1日	ECB理事会プレビューの補足～超日銀化現象～
2015年11月27日	週末版
2015年11月26日	追加緩和後のユーロ相場～また、「下落の時代」？～
2015年11月25日	ECB理事会プレビュー(12月3日開催分)～3つの緩和メニュー～
2015年11月24日	ECB理事会議事要旨～「未知の領域」への不安も～
2015年11月20日	週末版
2015年11月17日	本邦7～9月期GDPを受けて～最近のULC動向～
2015年11月16日	仏同時多発テロを受けて～政治統合か、瓦解か～
2015年11月13日	週末版(ドル調達コストの急騰について～「割に合わない」ムードが強まる対外証券投資～)
2015年11月12日	12月ECB緩和を阻むもの～戻ってしまったインフレ期待～
2015年11月11日	米輸入物価下落が示す「不況の輸入」
2015年11月10日	本邦9月国際収支統計と円相場の需給について
2015年11月9日	米10月雇用統計を受けて～問題は「何回できるか」～
2015年11月6日	週末版(ECBの「次の一手」を考える～預金ファンシリティ金利のマイナス幅はどこまでいくのか～)
2015年11月4日	3度目の正直に挑む、ドル/円相場の年間値幅
2015年11月2日	日銀金融政策決定会合を終えて～幻滅リスク回避も・・・～
2015年10月30日	週末版
2015年10月29日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年9月分)
2015年10月28日	FOMC声明文のプレビュー～注目すべき3点～
2015年10月27日	振り出しに戻った投機筋の円売り～2つの理由～
2015年10月26日	ECB緩和予告は日銀を追い詰めたと言えるのか？
2015年10月23日	週末版(ECB理事会を終えて～止まりそうにない金融政策の通貨政策化～)
2015年10月21日	米為替政策報告書について～我慢の限界は近い？～
2015年10月20日	日銀金融政策決定会合プレビュー(10月30日開催分)
2015年10月19日	ECB理事会プレビュー(10月22日開催分)
2015年10月16日	週末版(ユーロ相場の乱高下を受けて～迫るHICPのマイナス常態化と追加緩和～)
2015年10月15日	米利上げを再検討すべき時期に
2015年10月14日	ドイツ経済に見られ始めた失速の兆候
2015年10月13日	正当性を増すブレitbartFRB理事のスタンス